

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	56	大学等名	浜松学院大学
テーマ	テーマⅣ 長期学外学修プログラム（ギャップイヤー）		

### 【総括評価】

A：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

### 【コメント】

#### <優れている点>

- ・本取組では長期学外学修期間を設け、全学生を対象に長期フィールドスタディを実施している。学外学修活動に加わる学生と教職員の全てのデータを集積・測定し、分析結果を教学マネジメント、教育カリキュラムの質的転換に利用していることは評価できる。
- ・アクティブ・ラーニングに基づく本大学独自のカリキュラムである「DiCoRes (Dialogue and Collaboration with Responsibility) プログラム」カリキュラムにおけるプラットフォームとして、フィリピン・ダバオ市、浜松市北遠地区、東北被災地においてフィールドスタディを実施し、各フィールドスタディの学修にルーブリックを順次導入していることは評価できる。
- ・学長が委員長を務める「大学教育改革委員会」の下で、事業のPDCAサイクルを進展させていることは評価できる。

#### <改善を要する点>

- ・学生の授業外学修時間や学生が企画する活動数等において目標値を下回っているため、回復策を検討する必要がある。
- ・DiCoRes 外部評価委員会による評価に基づき、長期学外学修プログラムの教育方法を全学的に普及させることを検討する必要がある。
- ・基礎プログラムと発展プログラムにおいて、ダバオ市フィールドと北遠フィールドが実施されているが、発展プログラムの参加者は両フィールド共各1名ということなので、参加者を増加させる必要がある。また、基礎プログラムと発展プログラムの内的関連を柔軟に展開させることが必要である。